

都市計画区域の一体性＜中城村・北中城村＞ 及び都市計画上の見解＜沖縄県＞について

中城村
北中城村

沖縄県

令和2年2月

目次

1. 都市計計画区域の一体性について（中城村）	1
2. 都市計計画区域の一体性について（北中城村）	15
3. 中城村・北中城村資料に対する都市計画上の見解及び意見（沖縄県）	31

都市計画区域の一体性について＜中城村＞

令和元年11月12日（火）
中城村

■ 都市計画区域の指定の考え方



都市計画法 第5条

一体の都市として総合的に整備し、開発し、及び保全する必要がある区域を都市計画区域として指定するものとする。



一体の都市として総合的に整備・開発・保全する必要がある区域とは...

市町村の行政区域にとらわれず、

①土地利用の状況及び見通し

②地形等の自然的条件

③通勤、通学等の日常生活圏

④主要な交通施設の設置の状況

⑤社会的、経済的な区域の一体性

の5つの視点から総合的に判断し、現在及び将来の都市活動に必要な土地や施設が相当程度その中で充足できる範囲のことを指す。

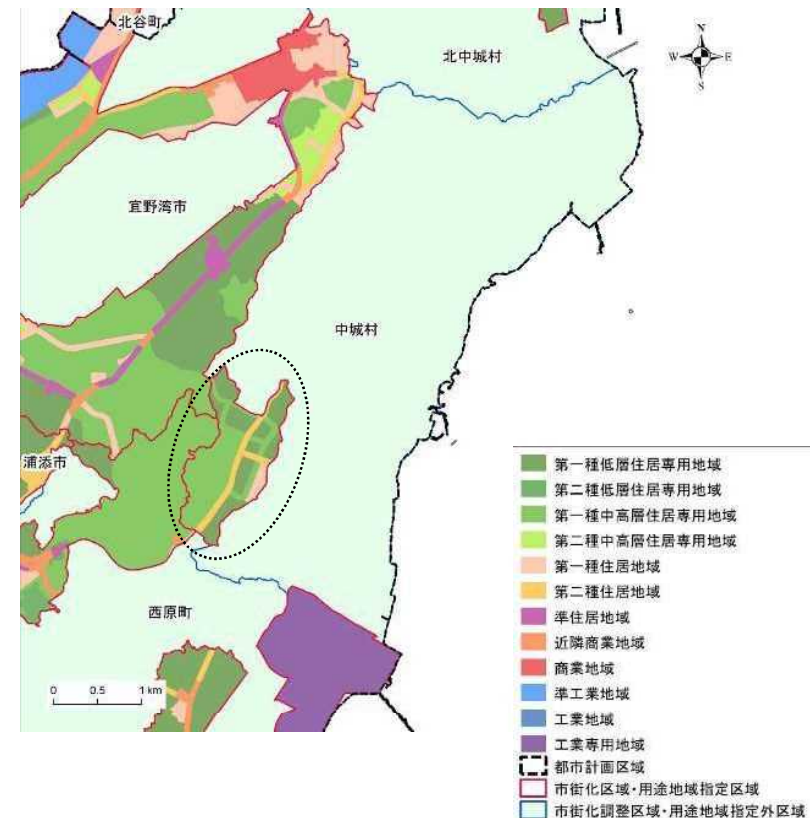
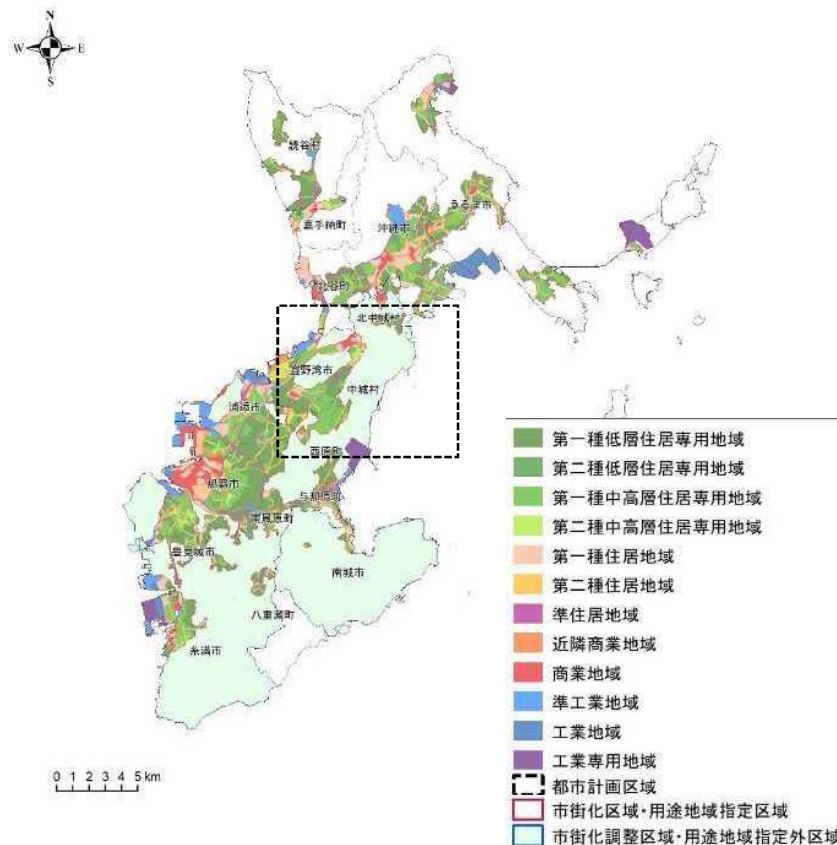
都市計画運用指針 第10版 平成30年9月国土交通省

①土地利用の状況及び見通し



(1) 中南部都市圏の市街化区域・用途地域について

- 中城村の市街化区域については、126ha（村全域の8.2%）の指定があり、西原町と宜野湾市の用途地域と連担している。



中南部都市圏の市街化区域(用途地域)について

資料：令和元年度那覇広域都市計画区域における区域区分検討協議会第1回委員会資料より

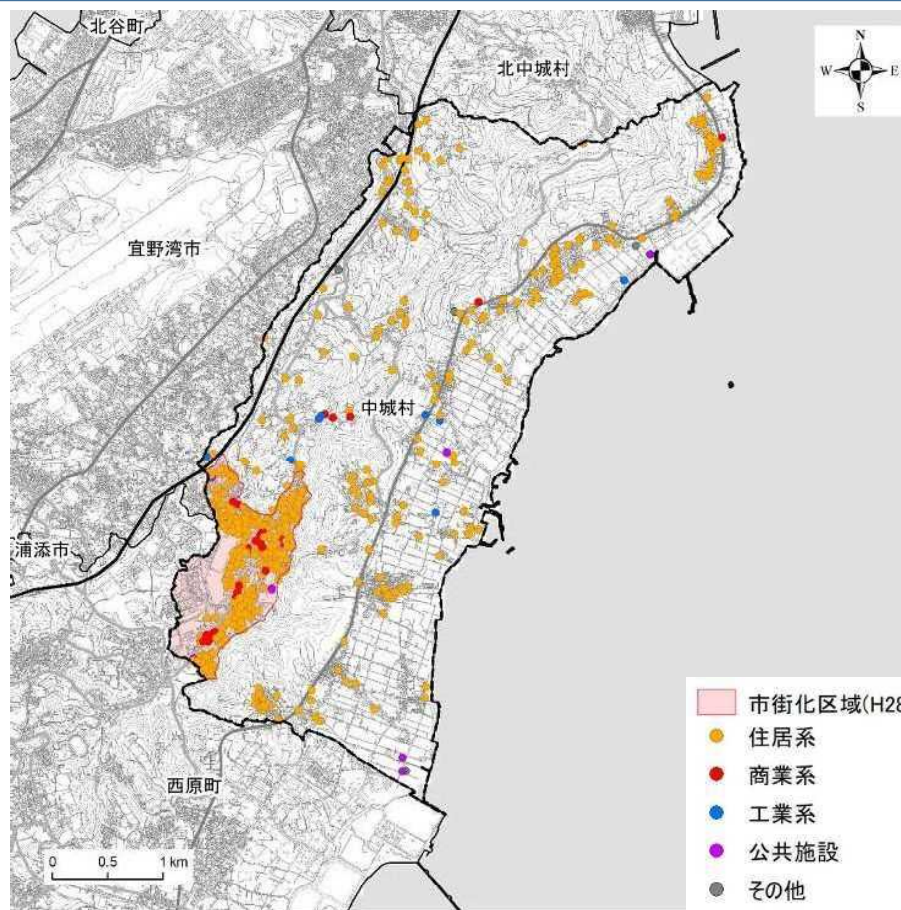
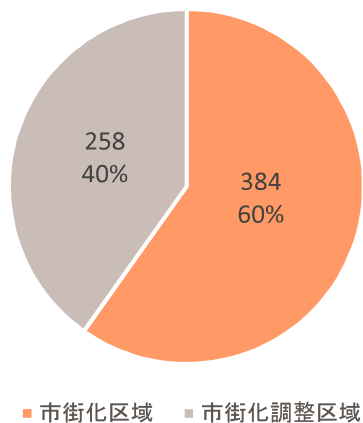
①土地利用の状況及び見通し



(2)開発動向(新築状況)について

- 村内のH23～27年の5カ年の新築状況のうち、約60%が市街化区域で行われている。
- 新築状況のうち、約40%が市街化調整区域内で行われており、国道329号・県道29号線を軸として、各地に点在している。

中城村新築状況
(平成23～27年)



中城村の新築状況について

出典：都市計画基礎調査(H29)

①土地利用の状況及び見通し

(3) 将来のまちづくり計画について

- ・ 県道 29 号線沿いで計画的市街地形性を推進し、県道 29 号線の接続先である国道 330 号や県道 81 号線沿いの市街地と一体的な土地利用を目指している。
- ・ 国道 329 号沿いで計画的に市街地を形成し、北中城村・沖縄市と連たんするまちづくりを目指している。



【計画的な市街地形性の方針】

①北上原地区・登又地区（市街地形成エリア）

→県道 29 号線沿いで計画的市街地形成を推進

②北東沿岸部地区（商工業振興エリア）

→電力施設の立地に伴う周辺の商工業及び居住環境整備により、商工業振興の拠点形成を図る

③タウンセンター地区（市街地形成エリア、公共・公益エリア）

→公共サービス施設（公園・図書館等）の集積エリアへの役場庁舎移転計画による中核拠点形成を図り、村の中心となる市街地形成を推進

④南浜地区・和宇慶地区（市街地形成エリア）

→西原道路の延伸を基軸に市街地形成を推進

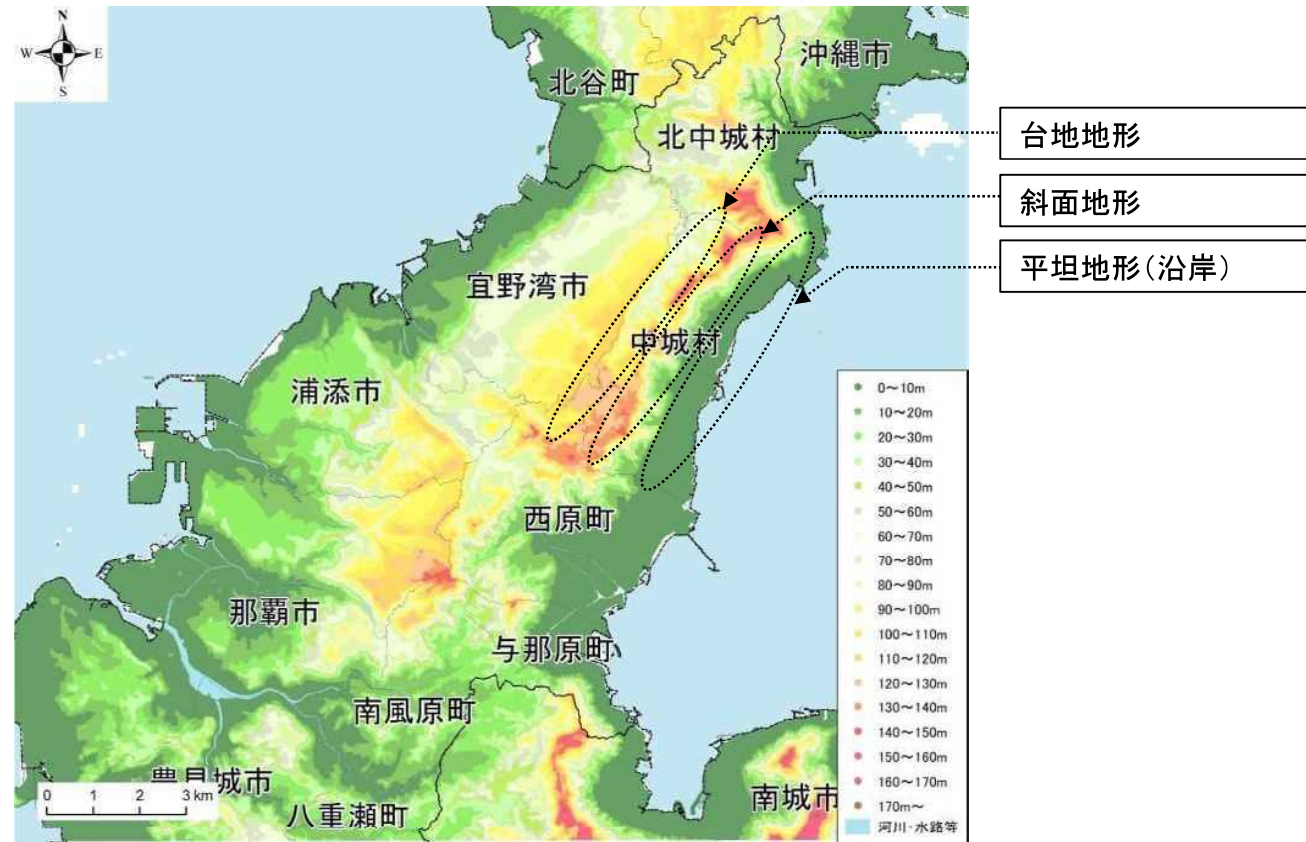
⑤現市街化調整区域における既存集落の範囲（集落環境形成エリア）

→将来、中部広域都市計画区域に移行した時に住居系の用途地域を指定する。

②地形等の自然的土地利用

(1) 地形について

- 中城湾に面した海岸線から標高 20m までの平坦地形、内陸部に広がる台地地形、その間にある斜面地形の大きく 3 つの地形に分かれている。
- 台地地形と平坦地形は、北中城村から沖縄市まで続いており、地形的一体性が見られる。
- 隣接する宜野湾市との境界は、急峻な地形であり、都市的土地利用の一体性を妨げる要因となっている。



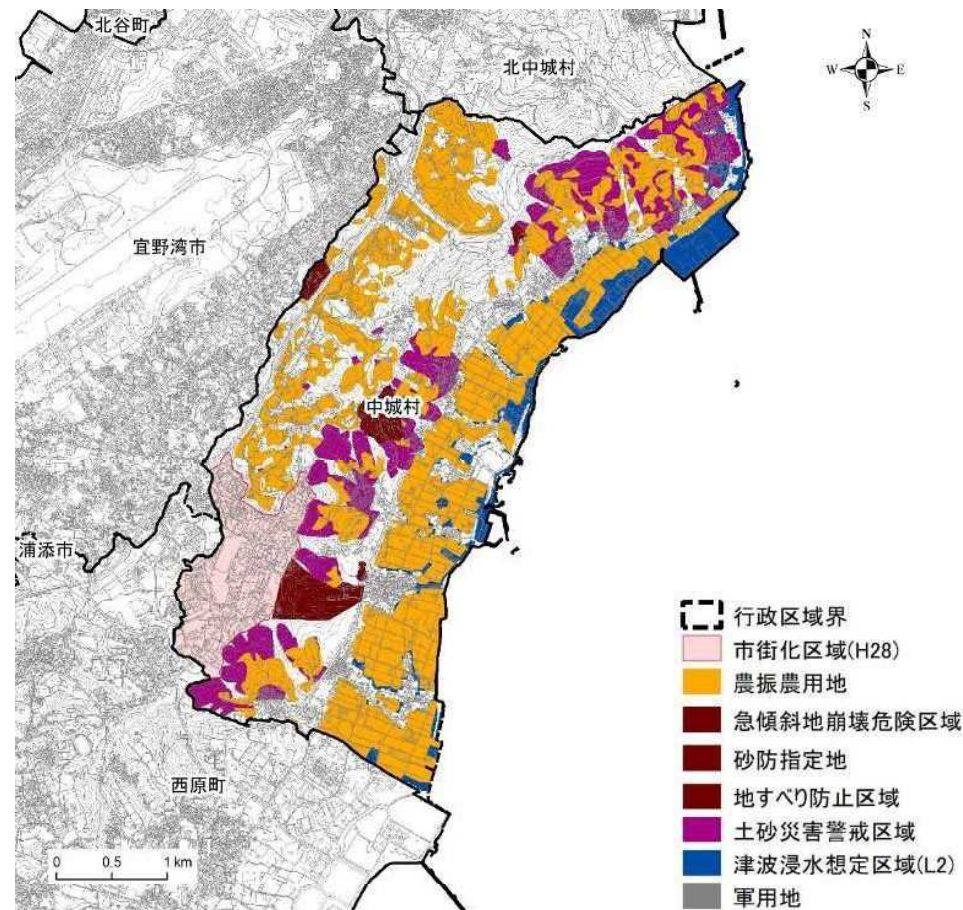
中城村の地形について

出典: 国土数値情報ダウンロードサービスより作成

②地形等の自然的土地利用

(2) 土地利用規制状況

- 村中央部の斜面地形に土砂災害警戒区域等の規制がされており、台地地形と平坦地形の多くは農用地としての制限が設けられている。



中城村の土地利用規制について

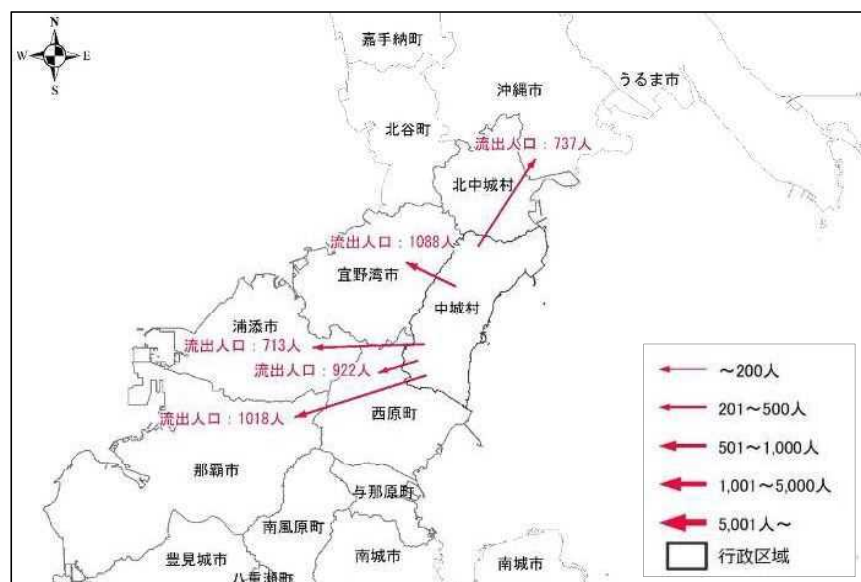
出典：都市計画基礎調査(H28)

③通勤・通学等の日常生活圏



(1) 中城村の人口流出(通勤)

- 中城村の人口流出(通勤)について、最も多いのは宜野湾市である。
- 那覇広域都市計画区域において、流出先第1位が那覇市でないのは、中城村と北中城村である。



順位	流出先	流出者数(人)	流出率(%)
第1位	宜野湾市	1,088	12.4
第2位	那覇市	1,018	11.6
第3位	西原町	922	10.5
第4位	沖縄市	737	8.4
第5位	浦添市	713	8.1

中城村からの流出先について

出典: H27. 国勢調査

	流出先第1位		流出先第2位		流出先第3位	
	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数
那覇市	浦添市	9,047 (7.1%)	豊見城市	4,055 (3.2%)	南風原町	2,924 (2.3%)
宜野湾市	那覇市	5,814 (15.4%)	浦添市	5,075 (13.4%)	沖縄市	2,062 (5.4%)
浦添市	那覇市	12,941 (28.1%)	宜野湾市	2,649 (5.7%)	西原町	1,521 (3.3%)
糸満市	那覇市	5,653 (21.5%)	豊見城市	2,628 (10.0%)	八重瀬町	816 (3.1%)
豊見城市	那覇市	2,940 (11.7%)	糸満市	1,803 (7.2%)	浦添市	1,124 (4.5%)
北中城村	沖縄市	1,182 (18.9%)	宜野湾市	632 (10.1%)	那覇市	467 (7.5%)
中城村	宜野湾市	1,088 (12.4%)	那覇市	1,018 (11.6%)	西原町	922 (10.5%)
西原町	那覇市	3,090 (21.2%)	浦添市	1,603 (11.0%)	宜野湾市	886 (6.1%)
与那原町	那覇市	1,775 (22.3%)	西原町	709 (8.9%)	南城市	676 (8.5%)
南風原町	那覇市	4,832 (29.5%)	浦添市	930 (5.7%)	豊見城市	807 (4.9%)
八重瀬町	那覇市	2,798 (22.5%)	糸満市	1,326 (10.7%)	豊見城市	848 (6.8%)

那覇広域都市計画区域における流出先について

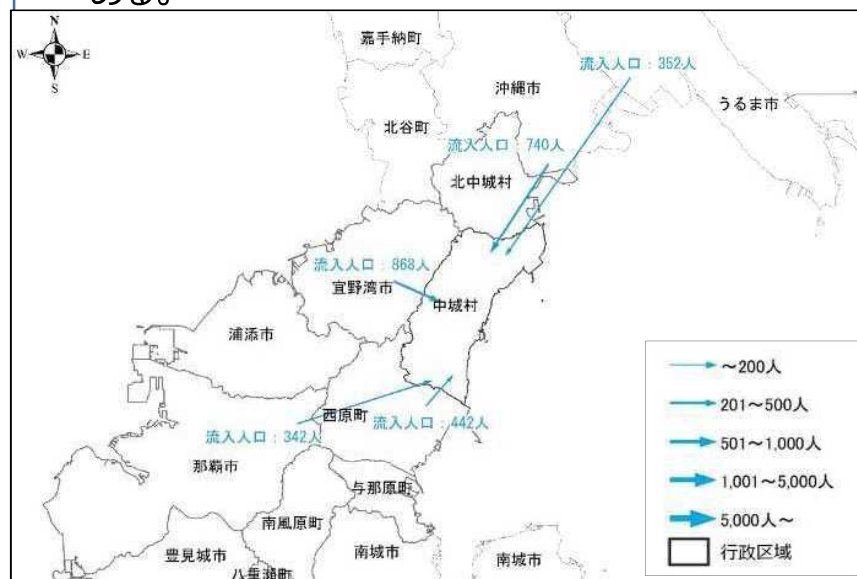
出典: H27. 国勢調査

③通勤・通学等の日常生活圏



(2) 中城村の人口流入(通勤)

- 中城村の人口流入（通勤）について、最も多いのは宜野湾市である。
- 那覇広域都市計画区域において、那覇市が流入先3位内に入っていないのは、中城村と北中城村である。



順位	流入先	流入者数(人)	流入率(%)
第1位	宜野湾市	868	12.8
第2位	沖繩市	740	10.9
第3位	西原町	442	6.5
第4位	うるま市	352	5.2
第5位	那覇市	342	5.1

中城村への流入先について

出典：H27.国勢調査

	流入先第1位		流入先第2位		流入先第3位	
	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
那覇市	浦添市	12,941 (8.3%)	豊見城市	8,993 (5.8%)	宜野湾市	5,814 (3.7%)
宜野湾市	浦添市	2,649 (8.4%)	沖繩市	2,337 (7.4%)	那覇市	2,321 (7.4%)
浦添市	那覇市	9,047 (18.3%)	宜野湾市	5,075 (10.3%)	沖繩市	1,742 (3.5%)
糸満市	那覇市	2,228 (9.9%)	豊見城市	1,803 (8.0%)	八重瀬町	1,326 (5.9%)
豊見城市	那覇市	4,055 (19.1%)	糸満市	2,628 (12.4%)	八重瀬町	848 (4.0%)
北中城村	沖繩市	1,475 (23.1%)	宜野湾市	662 (10.4%)	うるま市	589 (9.2%)
中城村	宜野湾市	868 (12.8%)	沖繩市	740 (10.9%)	西原町	442 (6.5%)
西原町	那覇市	2,630 (15.2%)	宜野湾市	1,690 (9.8%)	浦添市	1,521 (8.8%)
与那原町	南城市	862 (15.4%)	那覇市	569 (10.1%)	西原町	472 (8.4%)
南風原町	那覇市	2,924 (19.6%)	南城市	1,297 (8.7%)	八重瀬町	773 (5.2%)
八重瀬町	那覇市	816 (9.7%)	南風原町	705 (8.4%)	西原町	679 (8.1%)

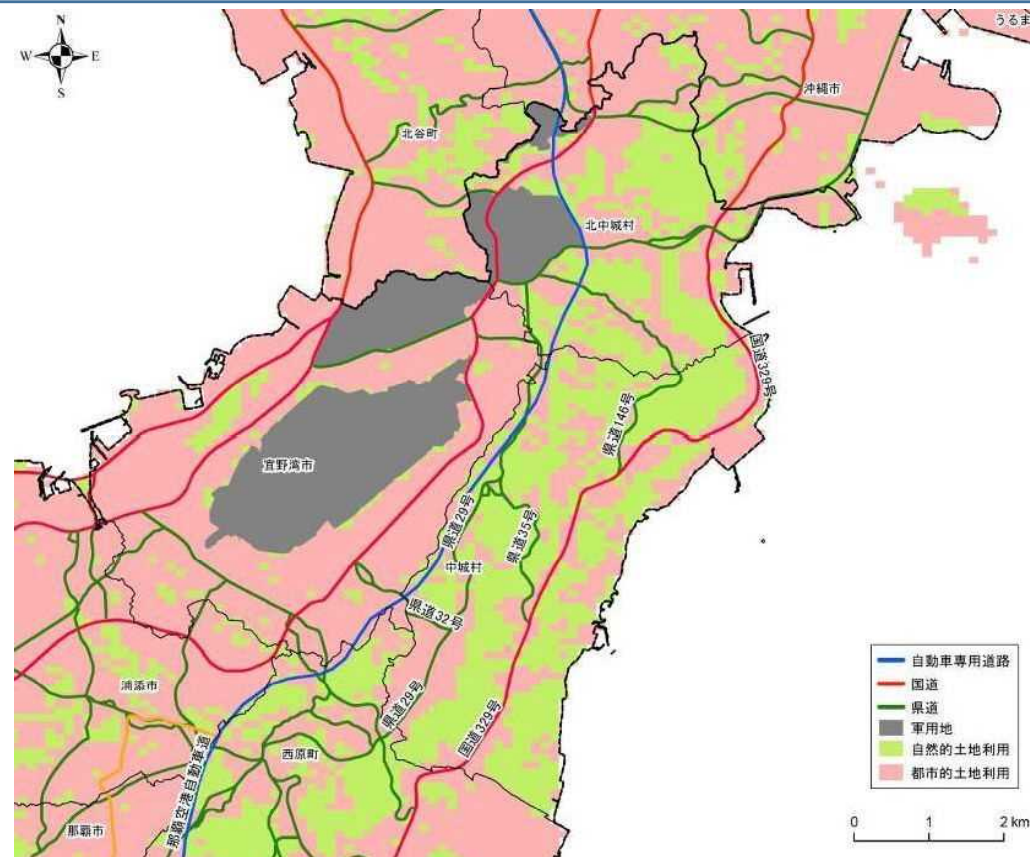
那覇広域都市計画区域における流出先について

出典：H27.国勢調査

④ 主要な交通施設の設置状況

(1) 道路ネットワーク

- 村内の道路ネットワークについて、南北に国道329号・県道29号線が縦貫しており、これらの南北幹線沿いに都市的土地利用が分布している。
- 村西部には、沖縄自動車道が縦貫しており、名護市と那覇市を連絡している。



中城村の道路ネットワークについて

出典：国土数値情報ダウンロードサービス 土地利用メッシュ(H26)より作成

④ 主要な交通施設の設置状況



(2) 公共交通

- バス交通について、国道329号に那覇バスターミナルと泡瀬営業所を結ぶ路線、高速道路を經由して那覇空港と名護、具志川を結ぶ路線が運行されており、中部では、北中城村、沖縄市、うるま市を經由している。



中城村のバス交通について

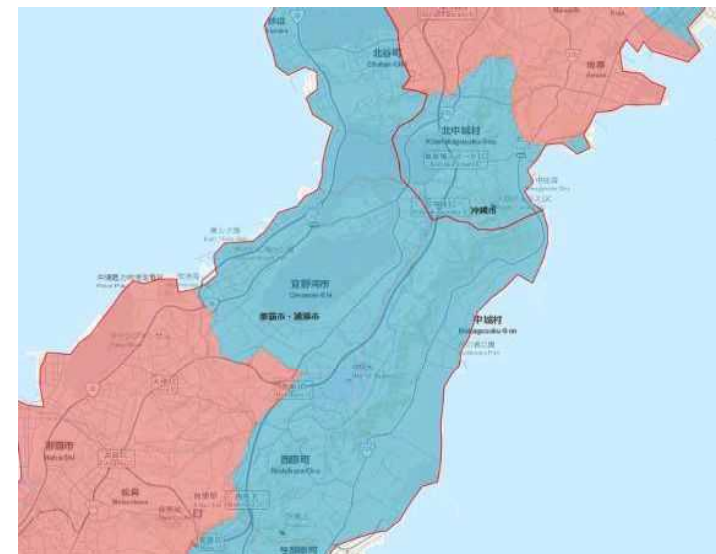
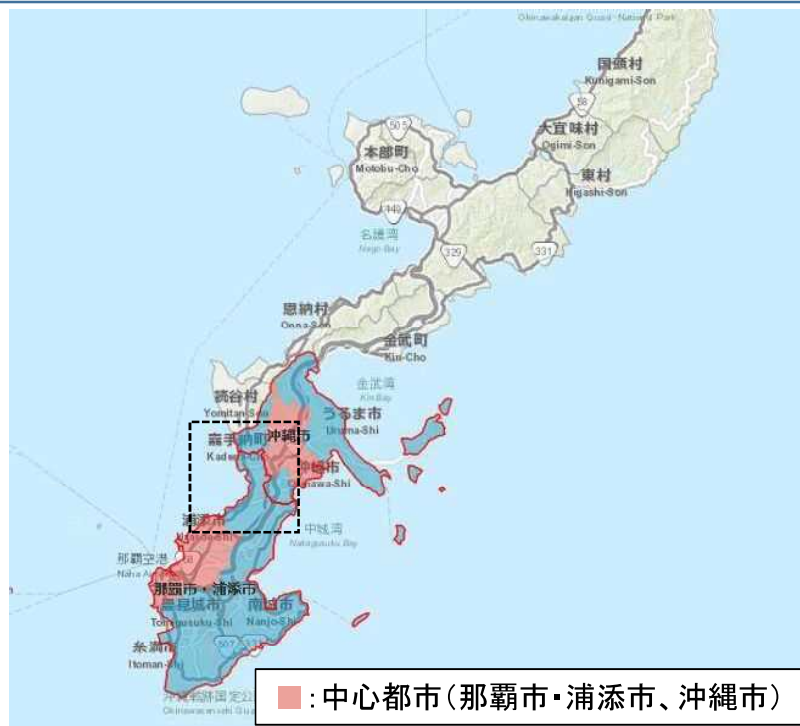
出典：バスマップ沖縄HP

⑤社会的、経済的な区域の一体性



(1) 都市雇用圏について

- ・ 広域的な社会・経済的な繋がりを持った地域区分である都市雇用圏（UEA）を見ると、中城村は那覇市を中心都市とした都市雇用圏となっている。
- ・ 地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、中城村は中部広域市町村圏事務組合（沖縄市・うるま市・宜野湾市・北谷町・嘉手納町・西原町・読谷村・北中城村・中城村の9市町村）に属している。
- ・ 特に北中城村との関係性においては、元々一つの村で、世界遺産中城城跡の共有、消防や清掃組合も共同で運営しており、共に中部広域都市計画区域へ移行し、共にまちづくりしなくてはならない。



中南部都市圏の都市雇用圏について

出典：UEA (Urban Employment Area) HP <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/UEA/index.htm>

⑤社会的、経済的な区域の一体性

(2) 商圈について(イオンモールライカム)

- 開業1年間(2015年4月～)の来場者が1,300万人を越えた大規模商業施設「イオンモールライカム」において、利用頻度が週に1回以上の割合が中部地区で11.5%と他の地区より高く、経済圏の一体性が見られる。

店舗名	利用頻度	県全体	北部	中部	南部	宮古・八重山
イオン モール 沖縄 ライカム	ほとんど毎日	0.3%	0.2%	0.7%	0.1%	0.0%
	週に2～3回	1.3%	0.2%	3.6%	0.2%	0.0%
	週に1回	3.1%	2.3%	7.2%	1.0%	0.1%
	月に1回	11.2%	15.0%	20.4%	6.2%	0.6%
	3か月に1回	14.5%	19.0%	17.2%	13.9%	2.6%
	上記未満 (なし含む)	69.6%	63.2%	50.9%	78.5%	96.8%

イオンモールライカムの地区別利用状況について

北部地区: 恩納村・金武町以北の市町村

中部地区: 沖縄市・うるま市・宜野湾市・北谷町・嘉手納町・西原町・読谷村・北中城村・中城村

南部地区: 那覇市・浦添市・豊見城市・糸満市・南城市・与那原町・南風原町・八重瀬町

出典: 沖縄県買物動向調査(H29)

①土地利用の状況及び見通し

- ・ 新築状況は、約40%が市街化調整区域内で行われており、国道329号・県道29号線を軸として、各地に点在している。
- ・ 県道29号線沿いで計画的市街地形成を推進し、県道29号線の接続先である国道330号や県道81号線沿いの市街地と一体的な土地利用を目指している。
- ・ 国道329号沿いで計画的に市街地を形成し、北中城村・沖縄市と連たんするまちづくりを目指している。

②地形等の自然的条件

- ・ 台地地形と平坦地形は、北中城村から沖縄市まで続いており、地形的一体性が見られる。
- ・ 宜野湾市との境界は、急峻な地形であり、都市的土地利用の一体性を妨げる要因となっている。
- ・ 斜面地形に土砂災害警戒区域等の規制、台地地形と平坦地形の多くは農用地としての制限が設けられている。

③通勤、通学等の日常生活圏

- ・ 中城村の人口流出・流入（通勤）について、最も多いのは宜野湾市である。
- ・ 那覇広域都市計画区域において、流出先第1位が那覇市でない、那覇市が流入先3位内に入っていないのは、中城村と北中城村である。

④主要な交通施設の設置の状況

- ・ 南北に国道329号・県道29号線が縦貫しており、これらの南北幹線沿いに都市的土地利用が分布している。
- ・ 村西部には、沖縄自動車道が縦貫しており、名護市と那覇市を連絡している。
- ・ バス交通について、国道329号に那覇バスターミナルと泡瀬営業所を結ぶ路線、高速道路を経由して那覇空港と名護、具志川を結ぶ路線が運行されており、中部では、北中城村、沖縄市、うるま市を経由している。

⑤社会的、経済的な区域の一体性

- ・ 地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、中城村は中部広域市町村圏事務組合に属している。
- ・ 特に北中城村との関係性においては、元々一つの村で、世界遺産中城城跡の共有、消防や清掃組合も一緒に行っており、共に中部広域都市計画区域へ移行し、共にまちづくりしなくてはならない。
- ・ 大規模商業施設「イオンモールライカム」において、利用頻度が週に1回以上の割合が中部地区で11.5%と他の地区より高く、経済圏の一体性が見られる。

都市計画区域の一体性について ＜北中城村＞

令和元年11月12日（火）
北中城村

■ 都市計画区域の指定の考え方

都市計画法 第5条

一体の都市として総合的に整備し、開発し、及び保全する必要がある区域を都市計画区域として指定するものとする。



一体の都市として総合的に整備・開発・保全する必要がある区域とは...

市町村の行政区域にとらわれず、

①土地利用の状況及び見通し

②地形等の自然的条件

③通勤、通学等の日常生活圏

④主要な交通施設の設置の状況

⑤社会的、経済的な区域の一体性

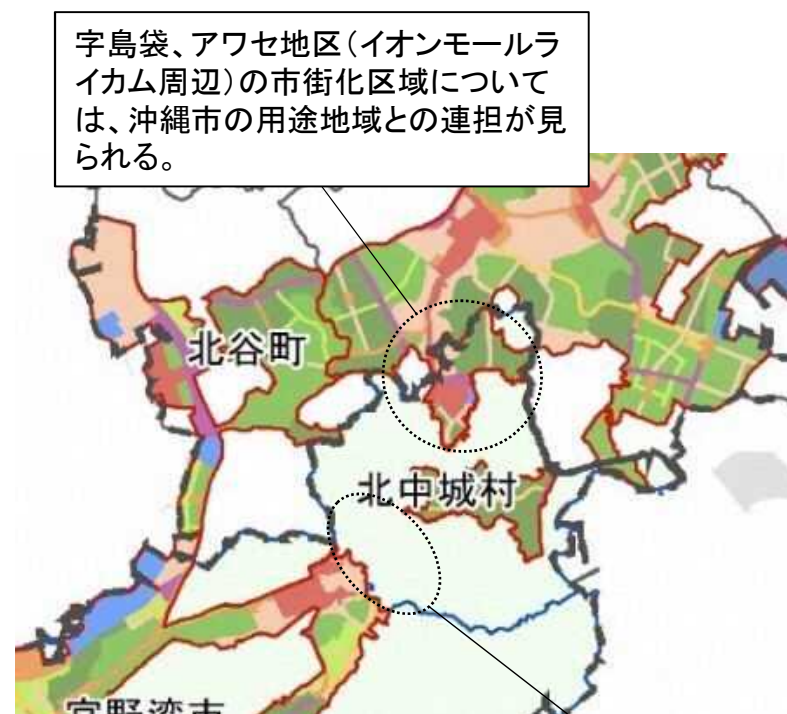
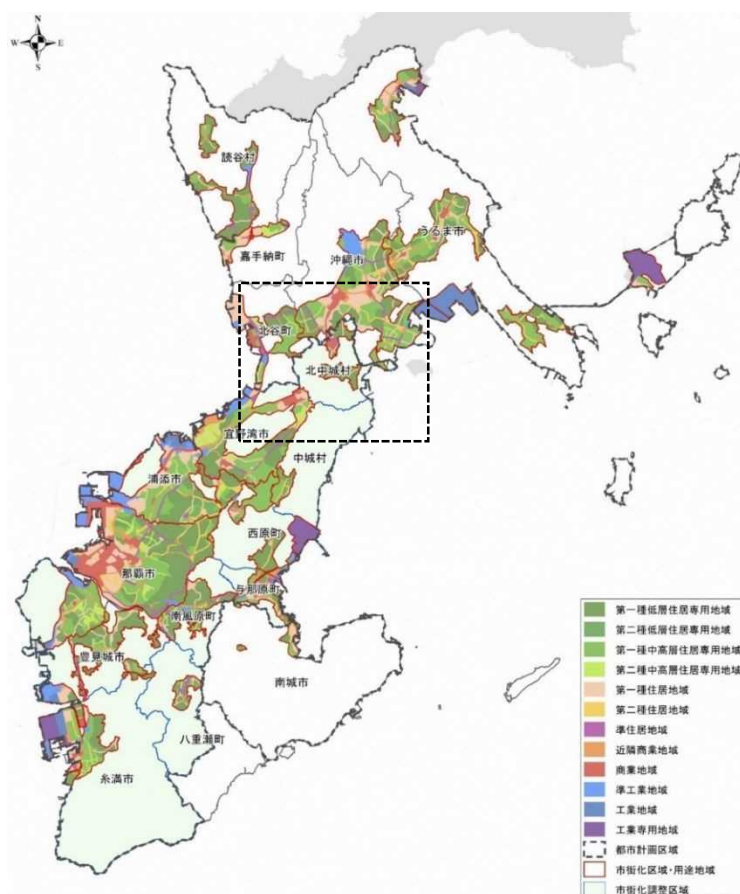
の5つの視点から総合的に判断し、現在及び将来の都市活動に必要な土地や施設が相当程度その中で充足できる範囲のことを指す。

都市計画運用指針 第10版 平成30年9月国土交通省

①土地利用の状況見通し

(1) 中南部都市圏の市街化区域・用途地域について

- 北中城村の市街化区域については、263ha（村全域の22.8%）の指定があり、字島袋、アワセ地区等、一部沖縄市の用途地域と連担している。
- 宜野湾市との境目について、普天間川による地形地物により、安谷屋地区の既存集落と宜野湾市との市街地の連担性が図られていない。



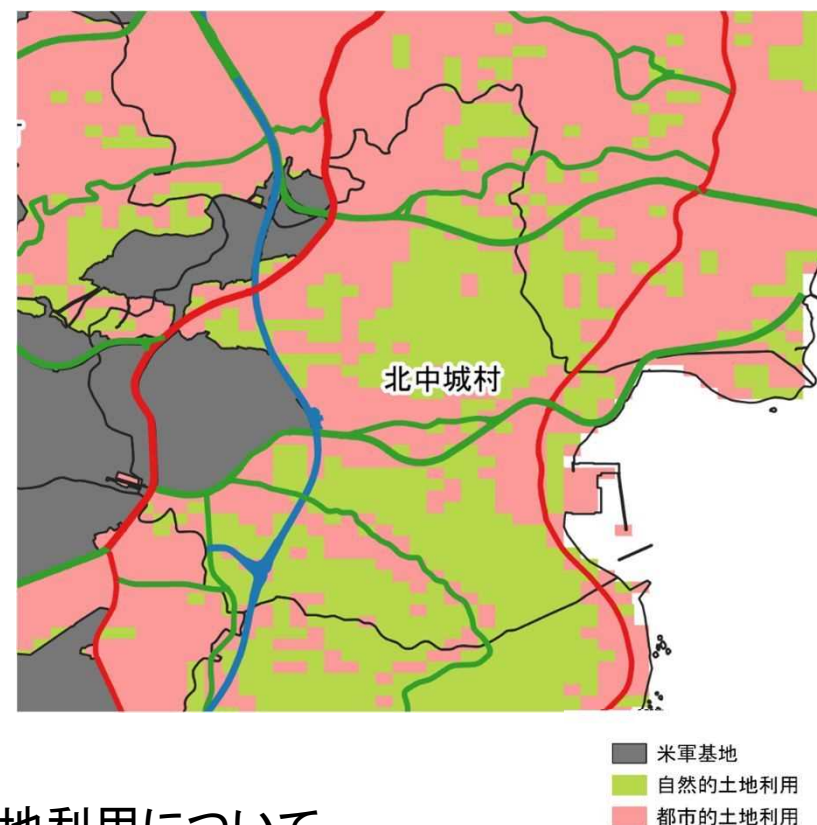
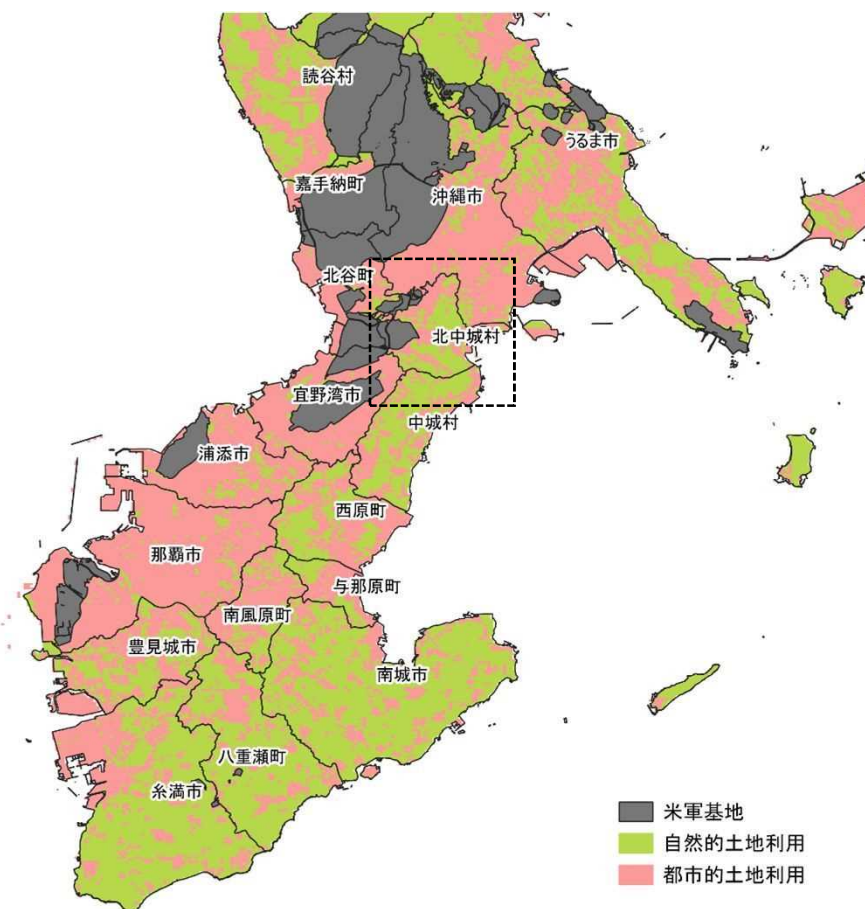
中南部都市圏の市街化区域(用途地域)について

資料：令和元年度那覇広域都市計画区域における区域区分検討協議会第1回委員会資料より

①土地利用の状況見通し

(2)土地利用について

- 村内の市街化区域及び国県道沿いの地域については、都市的土地利用が図られている。



北中城村の土地利用について

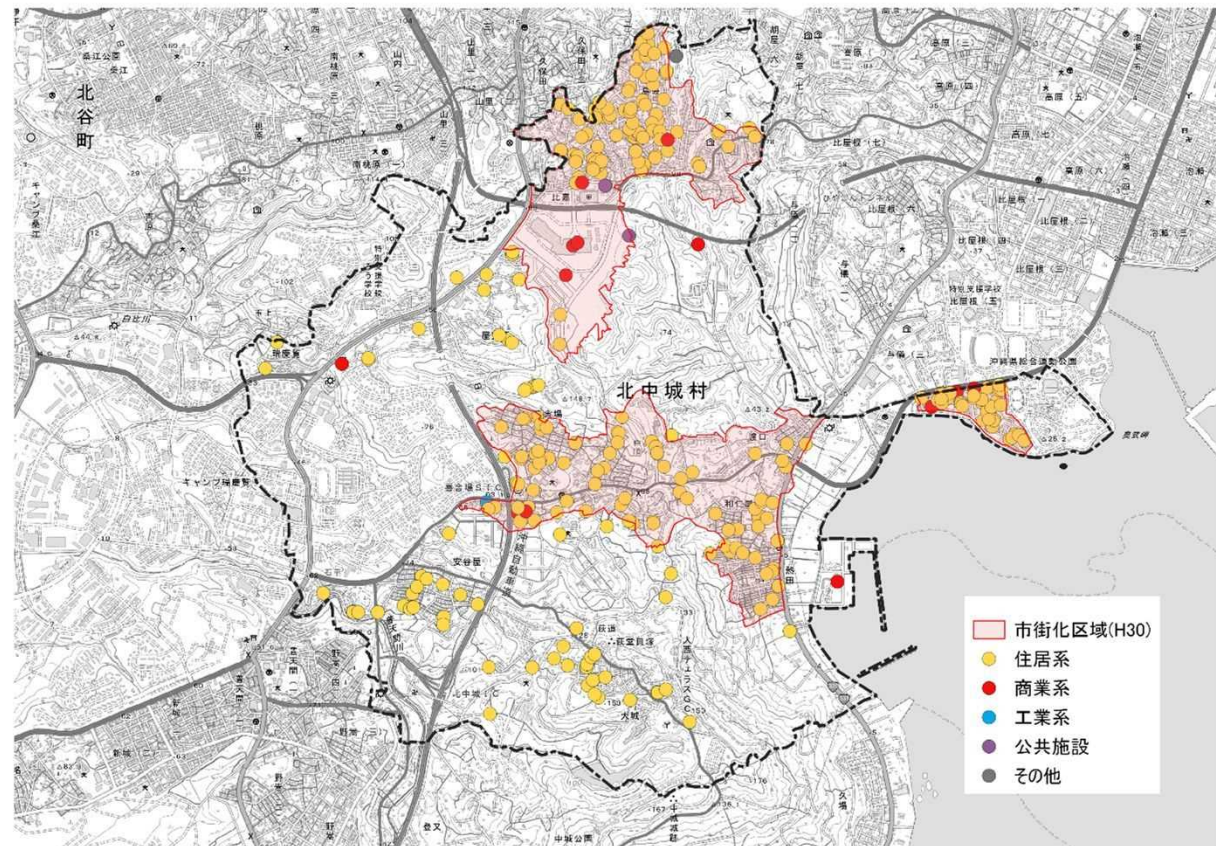
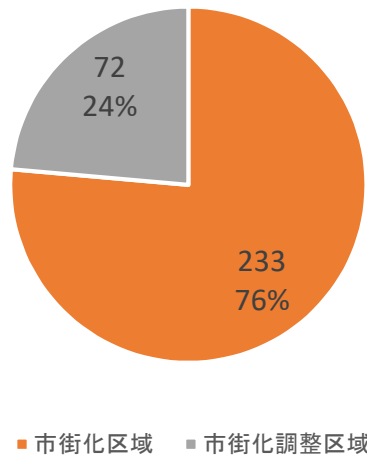
出典:国土数値情報ダウンロードサービス 土地利用メッシュ(H26)より作成

①土地利用の状況見通し

(3)開発動向(新築状況)について

- 村内のH23～27年の5カ年の新築状況のうち、約76%が市街化区域で行われている。
- 市街化調整区域内については、既存市街化区域と飛地に位置する既存集落（荻道地区・安谷屋地区）での新築が見られる。

北中城村新築状況
(平成23～27年)



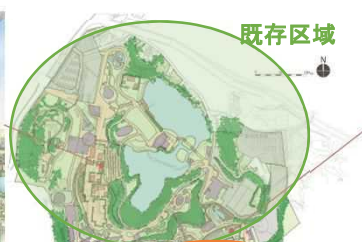
北中城村の新築状況について

20

①土地利用の状況見通し

(4) 将来のまちづくり計画について(沖縄こどもの国)

- 沖縄こどもの国（沖縄市）について、設立の目的である人材の育成に加え、国内外からの観光誘客に寄与する魅力的な施設を目指すため、公園の拡張を含めた再整備計画が挙げられている。
- 公園の拡張区域は北中城村がほとんどを占めるため、村の将来土地利用計画についても公園拡張に関する計画を反映する必要がある。



沖縄こどもの国施設整備基本計画(イメージ図)

出典: 沖縄こどもの国施設整備基本計画策定業務報告書(H28)

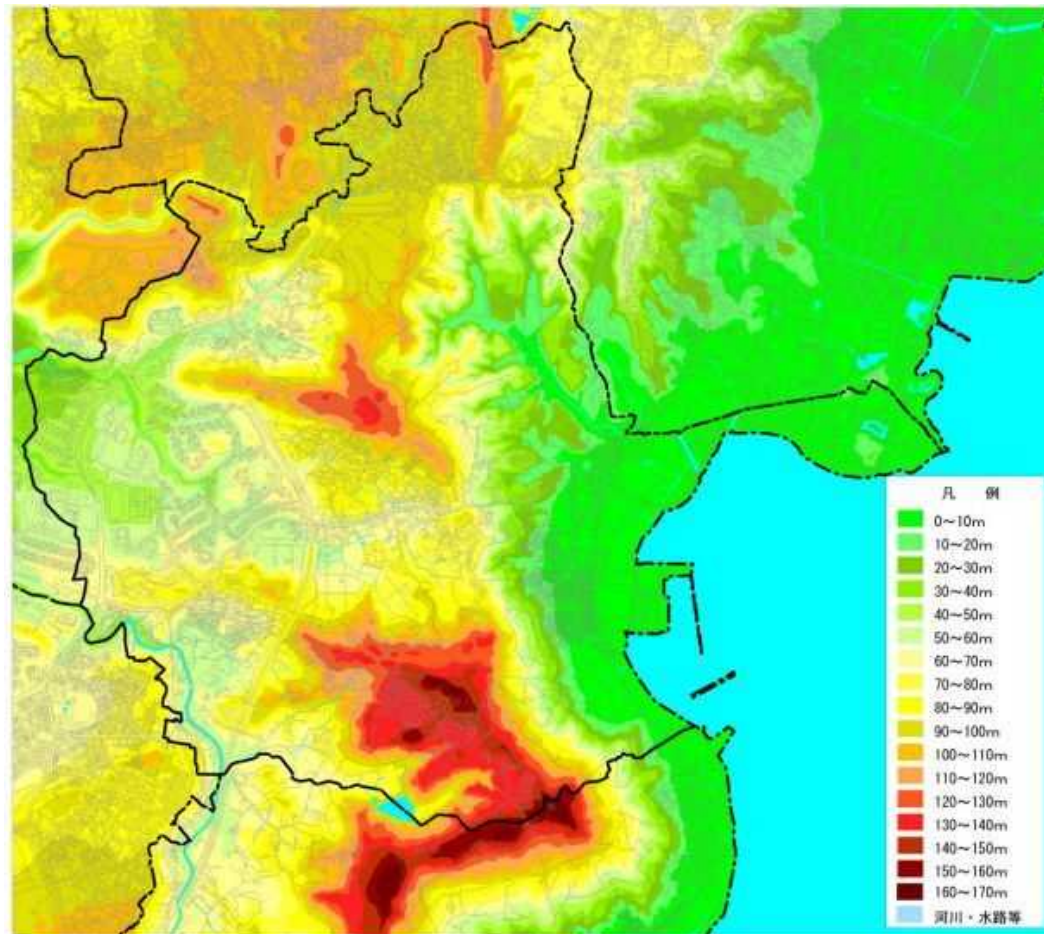
北中城村整備方針図(一部抜粋)

出典: 北中城村都市計画マスタープラン<案>(H31)

②地形等の自然的土地利用

(1) 地形について

- 中城湾に面した海岸線から標高 20m までの海岸低地、内陸部に広がる斜面を形成している丘陵地域、そして台地と大きく 3 つに分けれる。
- 起伏の変化に富んだ地形のため、その斜面緑地を骨格として緑豊かな地域となっている。

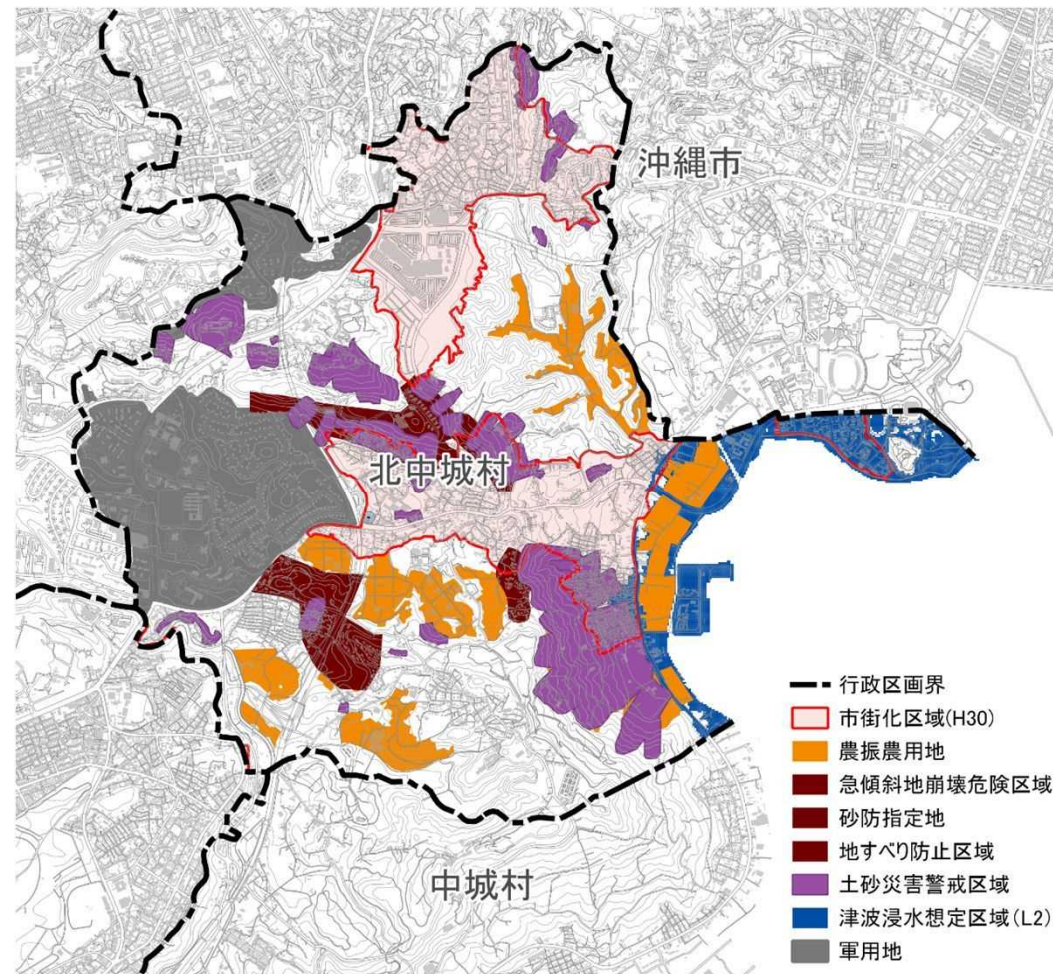


北中城村の地形について

②地形等の自然的土地利用

(2) 土地利用規制状況

- 村全体的に標高差が激しく急傾斜地が広がっていることから、土砂災害警戒区域等の災害に関する規制の面積が広く、新たに開発が出来る区域が限られている。



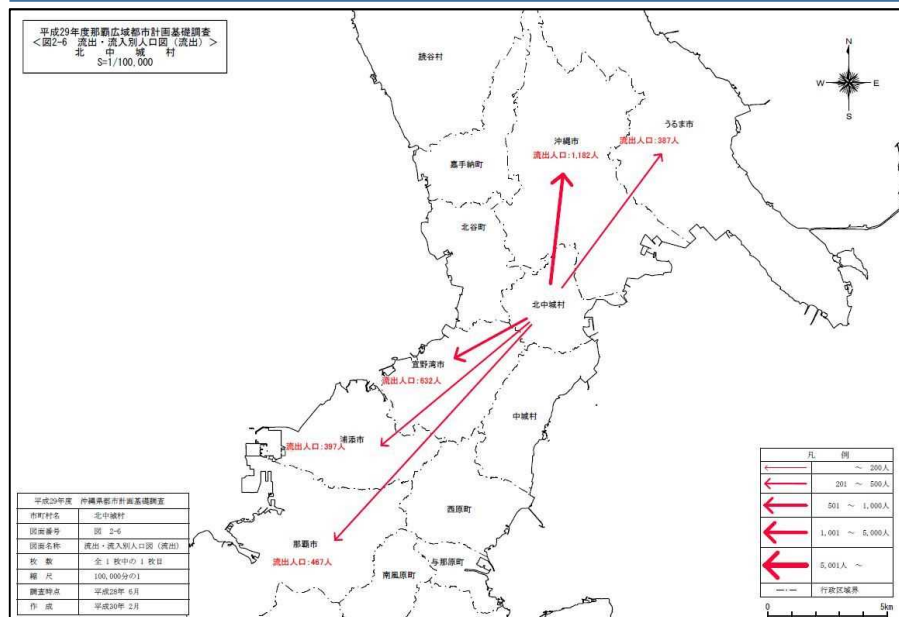
北中城村の土地利用規制について

出典：都市計画基礎調査(H28)

③通勤・通学等の日常生活圏

(1) 北中城村の人口流入・流出(H27.国勢調査)

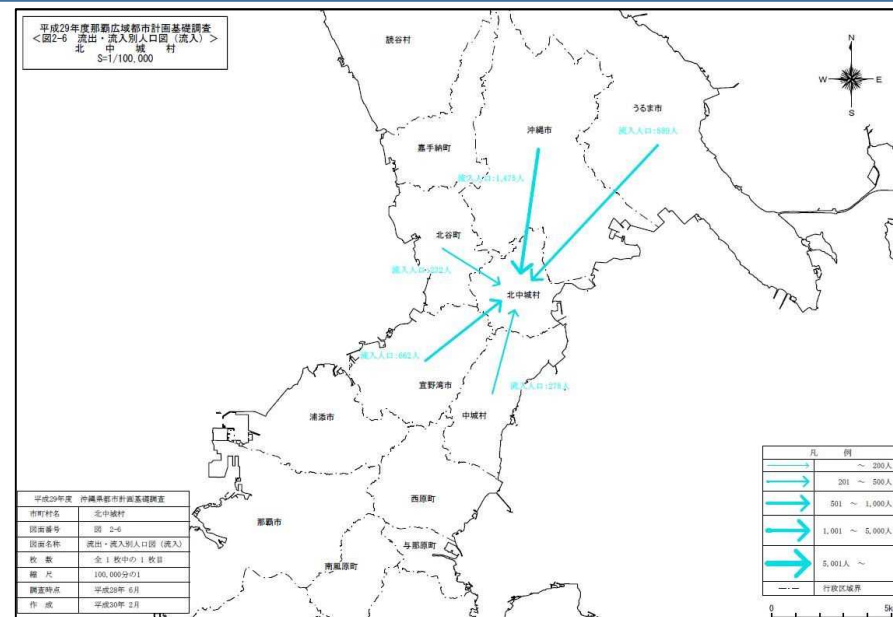
- 北中城村の人口流入・流出について、最も多いのは流入・流出ともに沖縄市である。
- 沖縄市に次いで、宜野湾市やうるま市等の近接する市町村の流入・流出が多い傾向にある。



順位	流出先	流出者数(人)	流出率(%)
第1位	沖縄市	1,182	18.9
第2位	宜野湾市	632	10.1
第3位	那覇市	467	7.5
第4位	浦添市	397	6.4
第5位	うるま市	387	6.2

北中城村からの流出先について

出典: 都市計画基礎調査(H29)



順位	流入先	流入者数(人)	流入率(%)
第1位	沖縄市	1,475	28.9
第2位	宜野湾市	662	13.0
第3位	うるま市	589	11.5
第4位	中城村	275	5.4
第5位	北谷町	232	4.5

北中城村への流入先について

出典: 都市計画基礎調査(H29)

③通勤・通学等の日常生活圏

(2) 商圈について(イオンモールライカム)

- イオンモールライカムを利用する来訪者について、利用頻度が週に1回以上の割合が中部で11.5%、南部が1.3%であることから、イオンモールライカムの商圈が中部に広がっていることがわかる。

イオンモールライカムの地区別利用状況について

店舗名	利用頻度	県全体	北部	中部	南部	宮古・八重山
イオン モール 沖縄 ライカム	ほとんど毎日	0.3%	0.2%	0.7%	0.1%	0.0%
	週に2～3回	1.3%	0.2%	3.6%	0.2%	0.0%
	週に1回	3.1%	2.3%	7.2%	1.0%	0.1%
	月に1回	11.2%	15.0%	20.4%	6.2%	0.6%
	3か月に1回	14.5%	19.0%	17.2%	13.9%	2.6%
	上記未満 (なし含む)	69.6%	63.2%	50.9%	78.5%	96.8%

北部地区: 恩納村・金武町以北の市町村

中部地区: 沖縄市・うるま市・宜野湾市・北谷町・嘉手納町・西原町・読谷村・北中城村・中城村

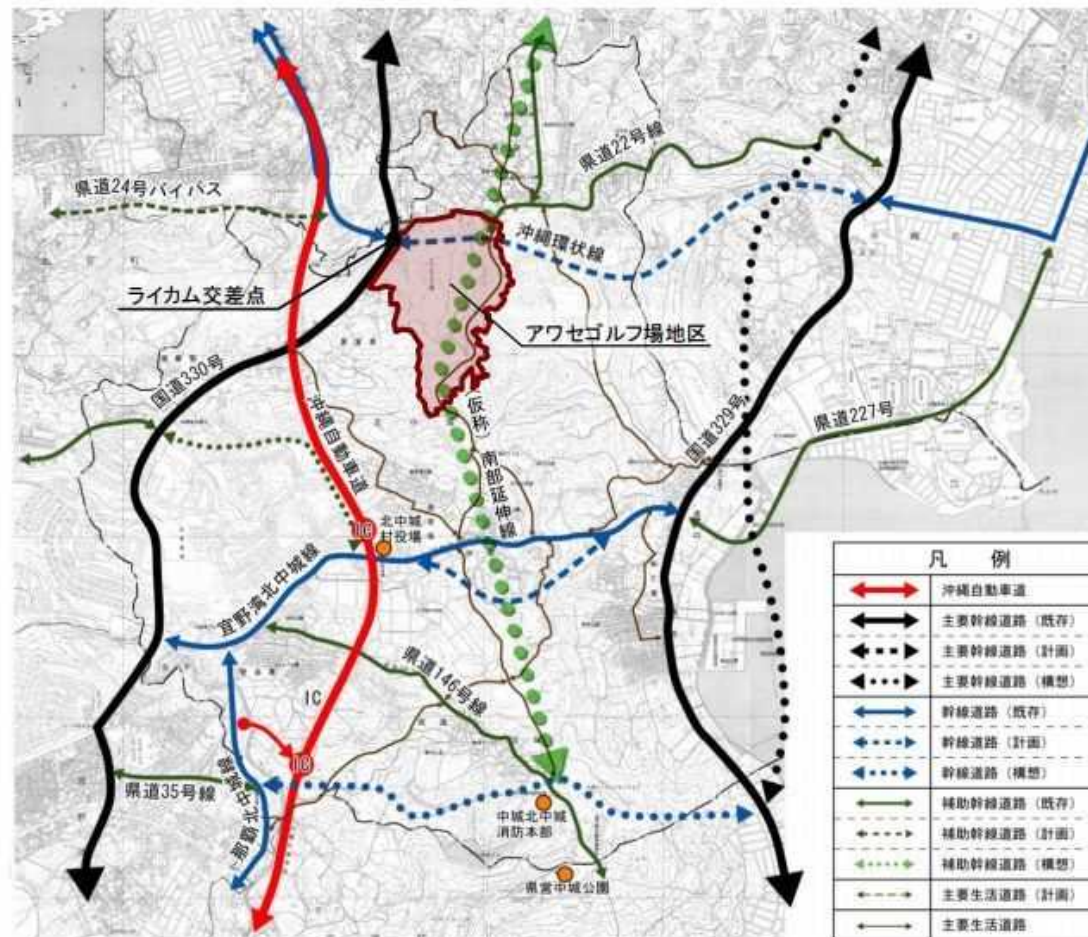
南部地区: 那覇市・浦添市・豊見城市・糸満市・南城市・与那原町・南風原町・八重瀬町

出典: 沖縄県買物動向調査(H29)

④ 主要な交通施設の設置状況

(1) 道路ネットワーク

- 村内の道路ネットワークについて、南北に国道330号・国道329号・沖縄自動車道が縦貫しており、これらの規格の高い道路を沖縄環状線・宜野湾北中城線等が東西に連結おり、主要な幹線道路が格子状に道路網を形成している。



北中城村の道路ネットワークについて

出典：北中城村まちづくり基本構想(H24)

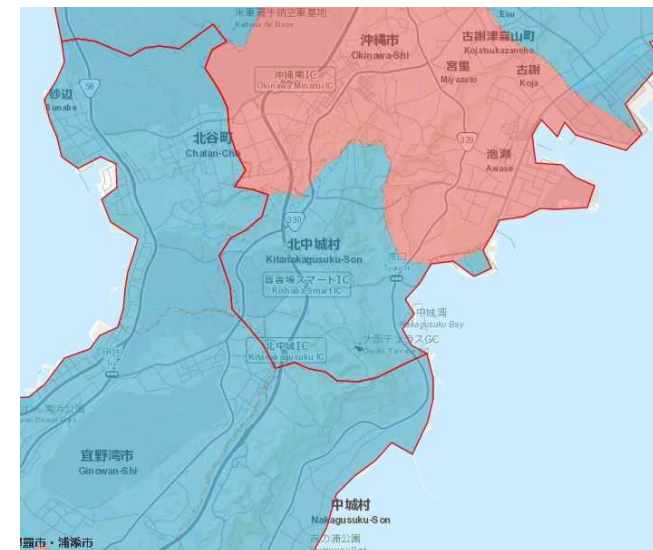
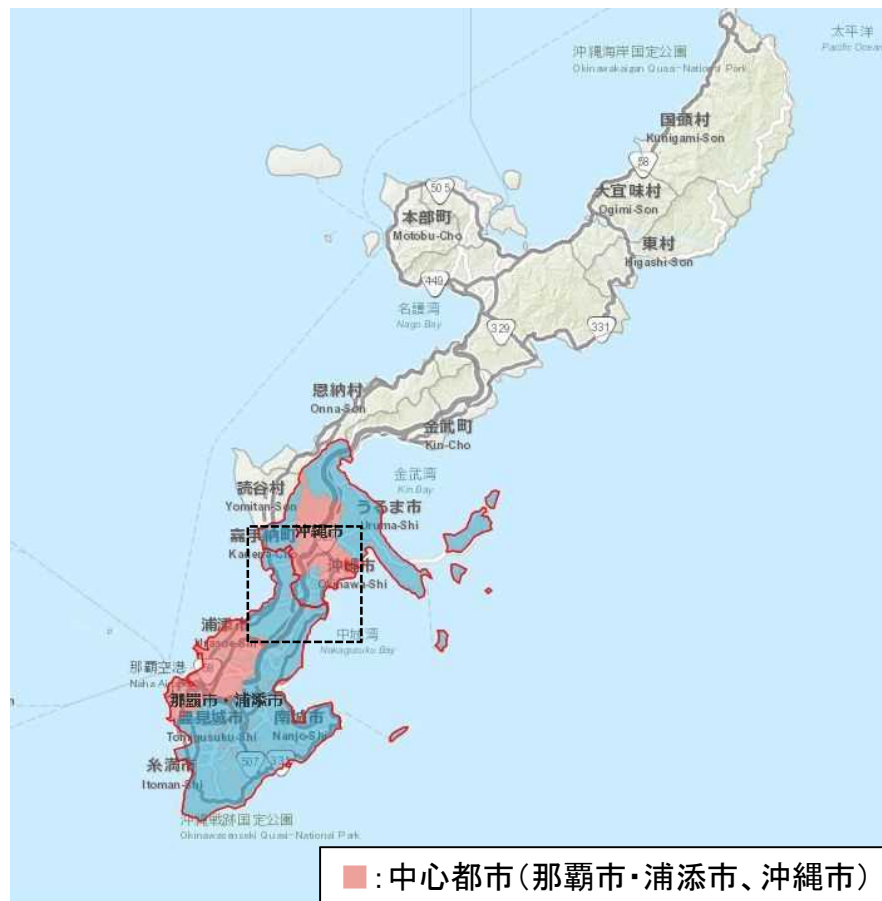
- 路線バスについて、令和元年10月に運行開始する基幹バス沿線の国道330号を中心に沖縄自動車道・国道329号・宜野湾北中城線で運行されている。



出典：那覇市・浦添市・宜野湾市・沖縄市・北中城村
地域公共交通総合連携計画（H29）

⑤ 社会的、経済的な区域の一体性

- 広域的な社会・経済的な繋がりを持った地域区分である都市雇用圏（UEA）を見ると、北中城村は沖縄市を中心都市とした都市雇用圏となっている。
- また、地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、北中城村は中部広域市町村圏事務組合（沖縄市・うるま市・宜野湾市・北谷町・嘉手納町・西原町・読谷村・北中城村・中城村の9市町村）に属している。

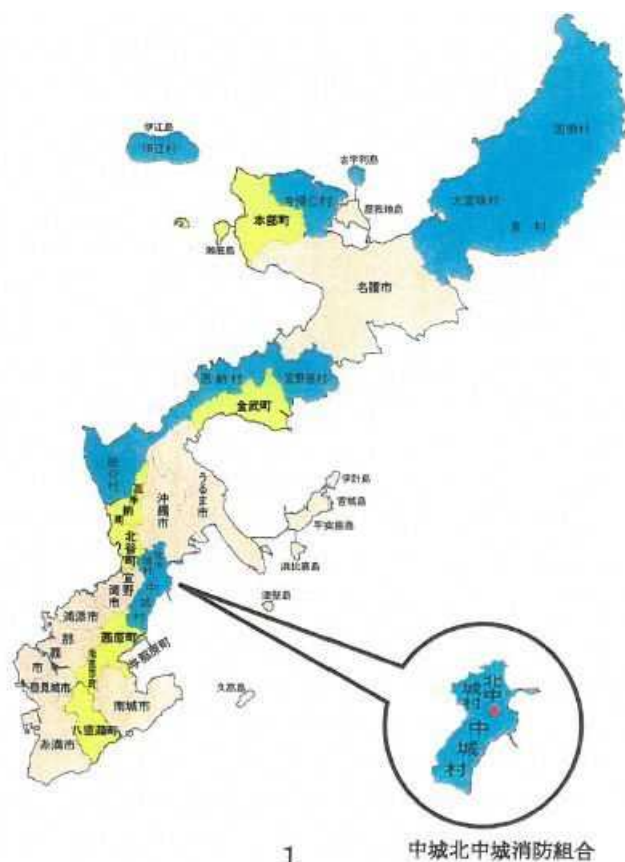


中南部都市圏の都市雇用圏について

出典: UEA (Urban Employment Area) HP <http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/UEA/index.htm>

⑤ 社会的、経済的な区域の一体性

- 複数の市町村が共同で消防事務を行う消防組合について、北中城村では隣接する中城村の2村で構成される中城北中城消防組合に属している。
- また清掃事務組合についても、北中城村では中城村の2村で構成される中城村・北中城村清掃事務組合に属している。



中城北中城消防組合について

出典：中城北中城消防組合 消防年報（H30）

沖縄県の清掃事務組合について

名 称	電話番号	FAX番号	住 所	構成市町村
倉 浜 衛 生 施 設 組 合	098-937-9942	098-939-5676	〒904-2141 沖縄市宇池原3394番地	宜野湾市、沖縄市、北谷町
東 部 清 掃 施 設 組 合	098-946-3014	098-946-6072	〒901-1301 与那原町字板良敷1612番地	西原町、与那原町、南風原町、南城市、中城村、北中城村、八重瀬町
糸満市・豊見城市清掃施設組合	098-997-3078	098-997-4737	〒901-0353 糸満市宇東里74番地の1	糸満市、豊見城市
本部町今帰仁村清掃施設組合	0980-48-3171	0980-48-4705	〒905-0209 本部町字北里182番地	本部町、今帰仁村
中部北環境施設組合	098-972-6619	098-972-6629	〒904-2205 うるま市栄野比1211番地6	うるま市、恩納村
島尻消防、清掃組合	098-948-7070	098-948-7070	〒901-0169 南城市玉城字屋嘉部194番地	南城市、八重瀬町
中城村北中城村清掃事務組合	098-942-3115	098-942-3116	〒901-2403 中城村字伊舎堂787番地	北中城村、中城村
中部衛生施設組合	098-972-7207	098-972-7207	〒904-2201 うるま市宇昆布1844番地	うるま市、読谷村、嘉手納町
金武地区消防衛生組合	098-968-2310	098-989-5507	〒904-1294 金武町字金武7745番地	宜野座村、金武町
比謝川行政事務組合	098-982-8221	098-956-5368	〒904-0201 嘉手納町字久得242番地1	読谷村、嘉手納町
那覇市・南風原町環境施設組合	098-882-6713	098-882-6722	〒901-1105 南風原町字新川650番地	那覇市、南風原町
南部広域行政組合	098-998-8857	098-998-9420	〒901-0401 八重瀬町字東風平965番地	糸満市、豊見城市、南城市、西原町、与那原町、八重瀬町
国頭地区行政事務組合	0980-41-3500	0980-41-3600	〒905-1411 国頭村字辺土名1727番地	国頭村、大宜味村、東村

出典：廃棄物対策の概要（H30）

①土地利用の状況及び見通し

- ・ 北中城村の市街化区域については、263ha（村全域の22.8%）の指定があり、字島袋、アワセ地区等、一部沖縄市の用途地域と連担している。
- ・ 村内のH23～27年の5カ年の新築のうち、約76%が市街化区域で行われている。
- ・ 沖縄市と隣接するロウワープラザ地区について、当地区で土地区画整理事業が那覇広域と中部広域とで2事業になってしまうため、一体的な開発を行う上で課題となる。

②地形等の自然的条件

- ・ 中城湾から内陸の丘陵地まで起伏に富んだ地形となっている。
- ・ 村全体的に標高差が激しく急傾斜地が広がっていることから、土砂災害警戒区域等の災害に関する規制の面積が広く、新たに開発が出来る区域が限られている。

③通勤、通学等の日常生活圏

- ・ 北中城村の人口流入・流出について、最も多いのは流入・流出ともに沖縄市である。
- ・ 村内にある大型商業施設イオンモールライカムの商圈について、中部市町村を中心に広がっている。

④主要な交通施設の設置の状況

- ・ 村内の道路網について、南北に国道330号・国道329号・沖縄自動車道が縦貫しており、これらの規格の高い道路を沖縄環状線・宜野湾北中城線等が東西に連結おり、主要な幹線道路が格子状に道路網を形成している。
- ・ 路線バスについて、令和元年10月に運行開始する基幹バス沿線の国道330号を中心に沖縄自動車道・国道329号・宜野湾北中城線で運行されている。

⑤社会的、経済的な区域の一体性

- ・ 地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、北中城村は中部広域市町村圏事務組合に属している。
- ・ 消防組合及び清掃施設組合については、北中城村と中城村の2村で構成されている。

●中城村・北中城村資料に対する都市計画上の見解及び意見（沖縄県）

都市計画区域との一体性について	中城村の意見	北中城村の意見	都市計画上の見解
①土地利用の状況及び見通し	● 新築状況のうち、約 40%が市街化調整区域内で行われており、国道 329 号・県道 29 号線を軸として、各地に点在。 ● 県道 29 号線沿いで土地区画整理等を推進し、県道 29 号線の接続先である国道 330 号や県道 81 号線沿いの市街地と一体的な土地利用を目指す。 ● 国道 329 号沿いで計画的な市街化を促進し、北中城村・沖縄市と連担する市街地形成を目指す。	● 北中城村の市街化区域については、263ha(村全域の 22.8%)の指定があり、字島袋、アワセ地区等、一部沖縄市の用途地域と連担。 ● 村内の H23～27 年の 5 力年の新築のうち、約 76%が市街化区域。 ● 沖縄市と隣接するロウワープラザ地区について、当地区で土地区画整理事業が那覇広域と中部広域とで 2 事業になることから、一体的な開発を行う上で課題。	● 北中城村については、沖縄市から用途地域が連続しており、「ロウワープラザ地区の返還」、「こどもの国の拡張」に伴い、沖縄市とのまちづくりの関係性が高まることから、那覇広域より中部広域との一体性が高まっている。 ● 中城村については、宜野湾市及び西原町から用途地域が連続しており、県道 29 号線沿道開発、宜野湾横断道路（仮称）及び西原道路の整備に伴い、これら道路の沿道利用により、宜野湾市や西原町とのまちづくりの関係性が高まることから、那覇広域との一体性が高まると考えられる。
②地形等の自然的条件	● 台地地形と平坦地形は、北中城村から沖縄市まで続いており、地形的一体性が見られる。 ● 宜野湾市との境界は、急峻な地形であり、都市的土地利用の一体性を妨げる要因。 ● 斜面地形に土砂災害警戒区域等の規制、台地地形と平坦地形の多くは農用地として制限。	● 中城湾から内陸の丘陵地まで起伏に富んだ地形。 ● 村全体的に標高差が激しく急傾斜地が広がっていることから、土砂災害警戒区域等の災害に関する規制の面積が広く、新たに開発が出来る区域が制限。	● 北中城村は、宜野湾市（那覇広域）との境界にある普天間川により土地が分断されている。一方、国道 329 号がある東海岸地域は、沖縄市から西原町まで一定の平地があり、中部広域から那覇広域にかけ広範囲に一体性が見られる。 ● 中城村は、宜野湾市（那覇広域）との境界にある普天間川により土地が一部分断されている。一方、国道 329 号がある東海岸地域は、沖縄市から西原町まで一定の平地があり、中部広域から那覇広域にかけ広範囲に一体性が見られる。 ● 両村とも東西に高低差はあるものの、自然的条件による都市計画区域の分断等があるとまでは言えない。
③通勤、通学等の日常生活圏	● 中城村の人口流入・流出について、最も多いのは宜野湾市。 ● 那覇広域都市計画区域において、流出先第 1 位が那覇市ではない、那覇市が流入先 3 位内に入っていないのは、中城村と北中城村。	● 北中城村の人口流入・流出について、最も多いのは流入・流出ともに沖縄市。 ● 村内にある大型商業施設イオンモールライカムの商圈について、中部市町村が中心。	● 北中城村については、沖縄市（中部広域）との関係性が高いものの、那覇広域との関係性も見られる。 ● 中城村については、那覇広域の他市町と比較して那覇市との関係性が低く、宜野湾市（那覇広域）との関係性が高いことが確認できる。
④主要な交通施設の設置の状況	● 南北に国道 329 号・県道 29 号線が縦貫しており、これらの南北幹線沿いに都市的土地利用が分布。 ● 村西部には、沖縄自動車道が縦貫しており、名護市と那覇市を連絡。 ● バス交通について、国道 329 号に那覇バスターミナルと泡瀬営業所を結ぶ路線、高速道路を経由して那覇空港と名護、具志川を結ぶ路線が運行されており、中部では、北中城村、沖縄市、うるま市を經由。	● 村内の道路網について、南北に国道 330 号・国道 329 号・沖縄自動車道が縦貫しており、これらの規格の高い道路を沖縄環状線・宜野湾北中城線等が東西に連結おり、主要な幹線道路が格子状に道路網を形成。 ● 路線バスについて、令和元年 10 月に運行開始する基幹バス沿線の国道 330 号を中心に沖縄自動車道・国道 329 号・宜野湾北中城線で運行。	● 両村とも、南北軸として沖縄自動車道、国道 330 号、国道 329 号等の幹線道路が整備されており、中部広域から那覇広域にかけて広範囲に連絡している。 ● 北中城村については、東西軸として県道 85 号線や県道 130 号線等が整備されているものの、南北軸と比較してネットワーク形成が弱い。東西軸の強化として、県道 24 号線 BP の整備が見込まれており、北谷町との関係性が高まるものと考えられる。 ● 中城村については、東西軸として県道 32 号線や県道 35 号線等が整備されているものの、南北軸と比較してネットワークが形成で弱い。東西軸の強化として、宜野湾横断道路（仮称）の整備が見込まれており、宜野湾市（那覇広域側）との関係性が高まるものと考えられる。
⑤社会的、経済的な区域の一体性	● 地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、中城村は中部広域市町村圏事務組合。 ● 特に北中城村との関係性においては、元ターツの村で、世界遺産中城城跡の共有、消防や清掃組合も一緒に行っており共に中部広域都市計画区域へ移行し、共にまちづくりが必要。 ● 大規模商業施設「イオンモールライカム」において、利用頻度が週に 1 回以上の割合が中部地区で 11.5%と他の地区より高く、経済圏の一体性が見られる。	● 地域間連携や複数市町村での交流イベント等に取り組んでいる広域都市圏事務組合については、北中城村は中部広域市町村圏事務組合。 ● 消防組合及び清掃施設組合については、北中城村と中城村の 2 村で構成。	● 都市雇用圏で両村を比較した場合、北中城村は沖縄市都市圏、中城村は那覇市・浦添市都市圏に属する。 ● 広域行政事務で比較した場合、両村は中部広域市町村事務組合に属しており、那覇広域というより中部広域との一体性が見られる。

意見	● 以上により、北中城村については沖縄市との関係性が強いことから中部広域との一体性が高まっており、中城村については那覇市との関係性は弱まっているものの、那覇広域の他市町村との関係性が高いことから那覇広域と一体性の方が高いと考えられる。
----	---

【参考】都市の一体性（資料2より抜粋）

③通勤・通学等の日常生活圏

- ◆中南部都市圏の通勤・通学の流入・流出は、那覇市や沖縄市を中心に人口の流入・流出の状況が見受けられ区域内市町村の移動が主であるが、中部広域との隣接する市町村間の移動も比較的多い。また、沖縄市、うるま市から那覇市への通勤・通学の移動もあり、両都市計画区域の中心都市間での移動も比較的多く、中南部都市圏全体で日常生活圏が形成されているとみられる。
- ◆区域内市町村の移動では那覇市と隣接市町村間移動、豊見城市と糸満市・八重瀬町間移動、南風原町と与那原町・南城市間移動、浦添市と西原町間移動、宜野湾市と中城村・北中城村間移動や嘉手納町と読谷村間移動、うるま市と読谷村間移動が比較的多い状況である。

⑤社会的、経済的な区域の一体性 1（都市雇用圏）

- ◆中南部都市圏の社会的、経済的な区域の一体性の評価 1 として、都市雇用圏（概ね中心都市とその都市に通勤する者が一定割合いる周辺地域）からみると、那覇広域では中心都市が那覇市・浦添市となり、その雇用都市圏には宜野湾市や中城村以南の南部圏域全体が雇用都市圏内に入るものとみられる
- ◆中部広域では中心都市が沖縄市となり、その雇用都市圏には北中城村や北谷町以北の中部圏域全体が雇用都市圏内に入るものとみられる。

⑤社会的、経済的な区域の一体性 2（広域市町村事務組合）

- ◆中南部都市圏の社会的、経済的な区域の一体性の評価 2 として、広域市町村事務組合別（行政面）からみると宜野湾市、北中城村、中城村、西原町が中部広域市町村圏事務組合として構成されており、行政面での一体性がみられる。
- ◆南部広域と中部広域の市町村圏事務組合は浦添市や那覇市、与那原町を境に南部広域と中部広域が構成されている。

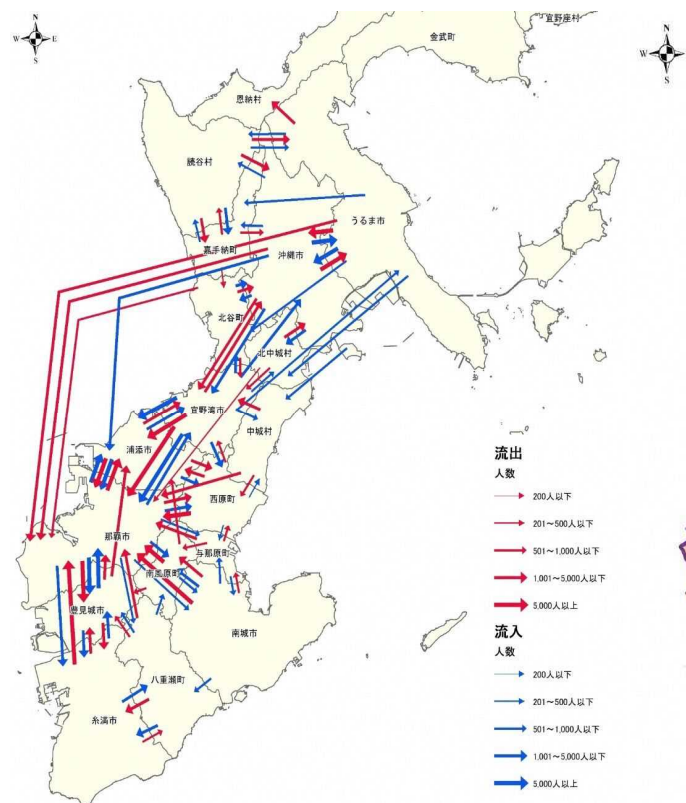


図 通勤・通学による人口の流入・流出状況図

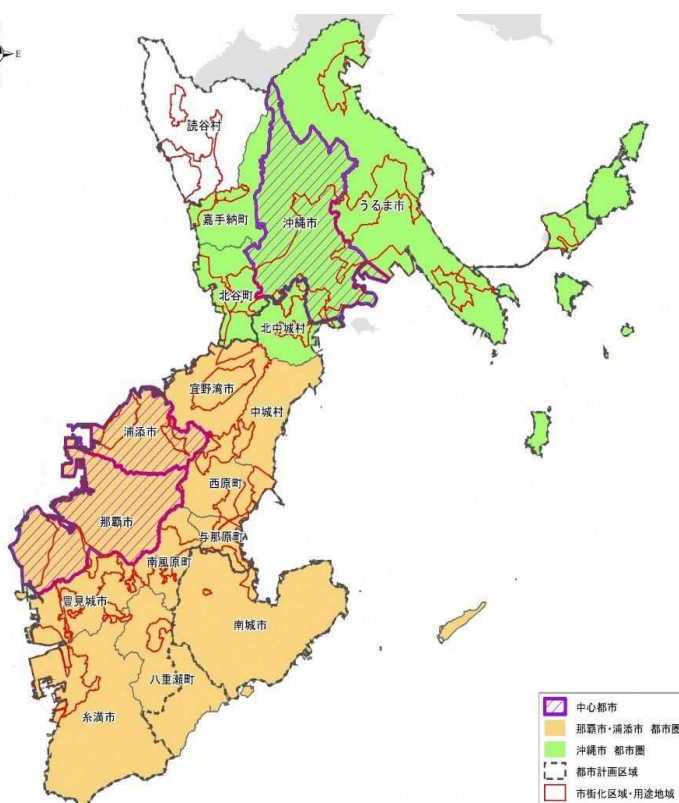


図 雇用都市圏図

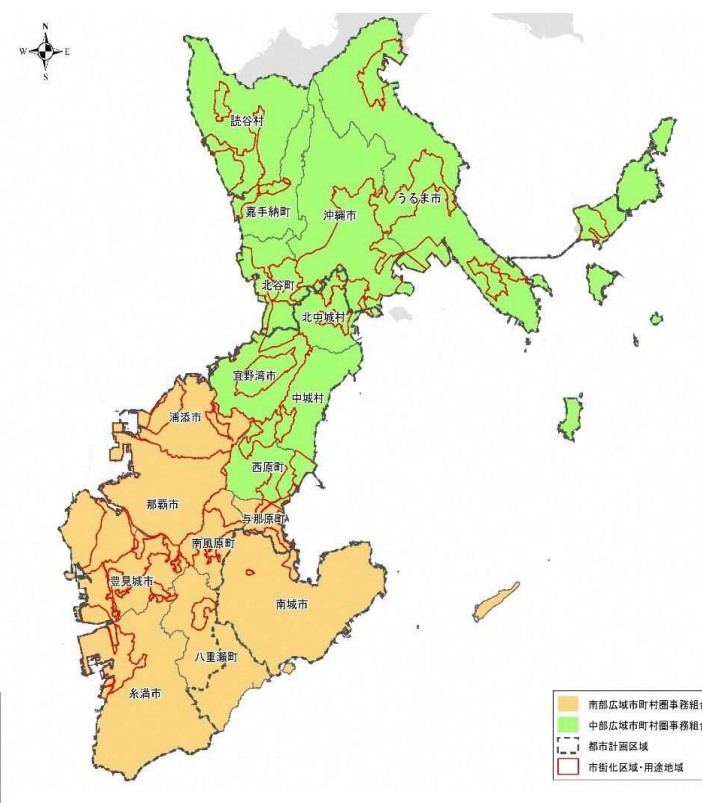


図 事務組合対処市町村